

## 御嵩町における地域公共交通の課題と対応方針

資料 7

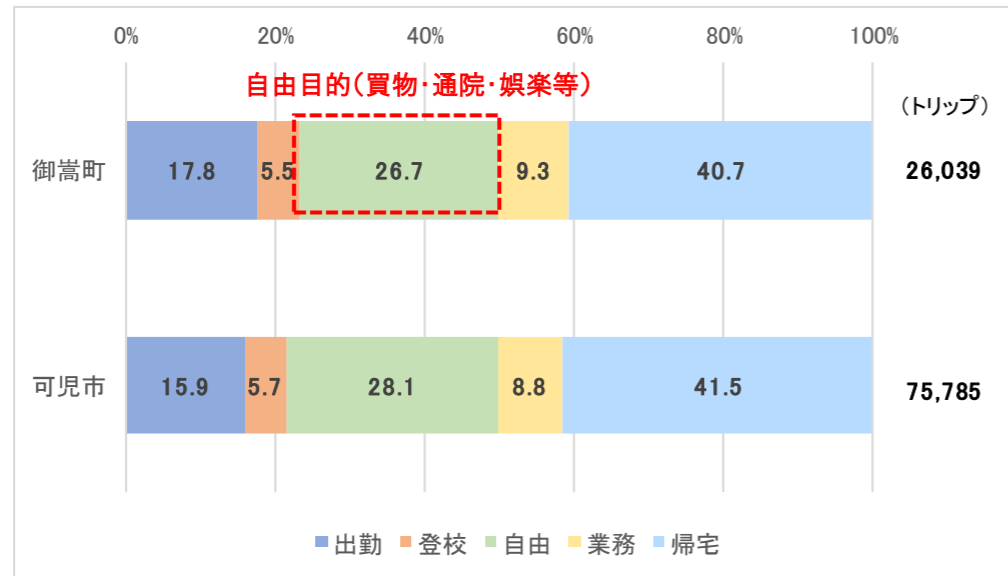
## (1) 各種調査結果からみた課題の抽出

御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向を抽出するとともに、そこから導かれる地域公共交通の課題（集約課題）を整理します。

調査分類	御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向	課題との対応
御嵩町の概況	・御嵩町の人口は、平成 7 年をピークに減少しており、2040 年には 15,000 人を下回る中、65 歳以上人口は割合、実数共に増加傾向	①
	・名鉄広見線、ふれあいバス、ふれあい予約バスによる御嵩町人口カバー率は約 89%（鉄道駅から 800m、バス停、乗降場から半径 300mの利用圏域）	①
	・主要集客施設は公共交通利用圏域に概ね内包されている	①
	・通勤・通学流動は可児市、八百津町との結びつきが強い	③
	・町民の移動目的は、自由目的（買物、通院、習い事、食事など）の割合が増加し、代表交通手段は自動車の利用割合が増加	①
上位・関連計画	・御嵩町第五次総合計画では公共交通に対する基本計画として、ふれあいバス・ふれあい予約バスの利用者数 29,000 人を目標としている	②
	・御嵩町都市計画マスタープランでは、御嵩駅周辺は歴史文化交流拠点と位置付けられ、駅周辺の整備や公共交通の利便性向上を方針としている	②
	・名鉄広見線活性化計画では、地域内外の利用促進、地域にとって必要な社会インフラである認識を高めることを目標としている	②④
	・名鉄広見線とバス交通の連携向上による広域交通網形成に関する基礎調査では、新トンネルの開通を踏まえて、日常生活と観光交流の視点で広域バス路線構成案が検討されている	③
	・可児市の地域公共交通網形成計画では、御嵩町に連絡する名鉄広見線が公共交通軸として位置づけられている	③
	・八百津町の地域公共交通網形成計画では、御嵩町を連絡する YAO バスが、八百津町交流拠点と明智駅を結ぶ広域公共交通路線として位置づけられている	③
公共交通の現状	・福祉分野の計画として、高齢者の買物需要に対応したサービスが実施されている	②③
	・公共交通の利用者数（平成 29 年度）は、名鉄広見線で約 895,000 人、ふれあいバスで約 15,000 人、ふれあい予約バスで約 8,500 人となっており、推移は横ばい傾向	③
	・ふれあい予約バスの乗合率は、運行開始から 2.0（人／台）以上を維持しており、令和元年 9 月時点では 2.3（人／台）となっている	③
町民アンケート	・運行経費は年々増加傾向にあり、平成 29 年度経費は、ふれあいバス約 1700 万円、ふれあい予約バス約 920 万円	③
	・自家用車の利用頻度は、67.5%の方が「ほぼ毎日」と回答しており、週に一回以上の利用者が 88.9%を占める	④
	・80 歳以上になっても 67.5%が運転の意向をもつ。運転免許証を返納した後の移動手段については、「家族・知人などによる送迎」が最も多く 43.5%、「名鉄広見線」39.0%、「ふれあい予約バス」37.7%、「ふれあいバス」36.7%	①
	・普段の外出の目的地について「買物」「パート・アルバイト」目的では御嵩町内が約半数を占めるが、「飲食・娯楽」「観光・レクリエーション」「習い事・趣味」目的では可児市が御嵩町内を大幅に上回る	②③
	・公共交通に関する認知度について「町内を名鉄広見線が走っていること」の認知度は 94.6%、「町内をふれあいバスが走っていること」は 83.9%、「町内をふれあい予約バスが走っていること」は 59.4%である。「自宅近くを走るバスで行くことのできる施設」は 12.8%に留まる	④
	・公共交通全体の満足度は、満足（満足＋やや満足）15.6%＜不満（やや不満＋不満）22.8%	①④
	・名鉄広見線を「年に数日程度」以上利用する人は 49.4%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）47.8%＞不満（やや不満＋不満）20.3%。非利用者の今後の利用条件は「自宅などから駅までの移動手段がある」が高い	①
	・ふれあいバスを「年に数日程度」以上利用する人は 4.1%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）40.0%＞不満（やや不満＋不満）16.0%。非利用者の今後の利用条件は「利用したい時間帯に運行している」が最も高く、次いで「運行本数が多い」「自宅からバス停が近い」	①
・ふれあい予約バスを「年に数日程度」以上利用する人は 3.7%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）45.4%＞不満（やや不満＋不満）0%。非利用者の今後の利用条件は「利用したい時間帯に運行している」「予約が簡単」「運行本数が多い」が高い	①	

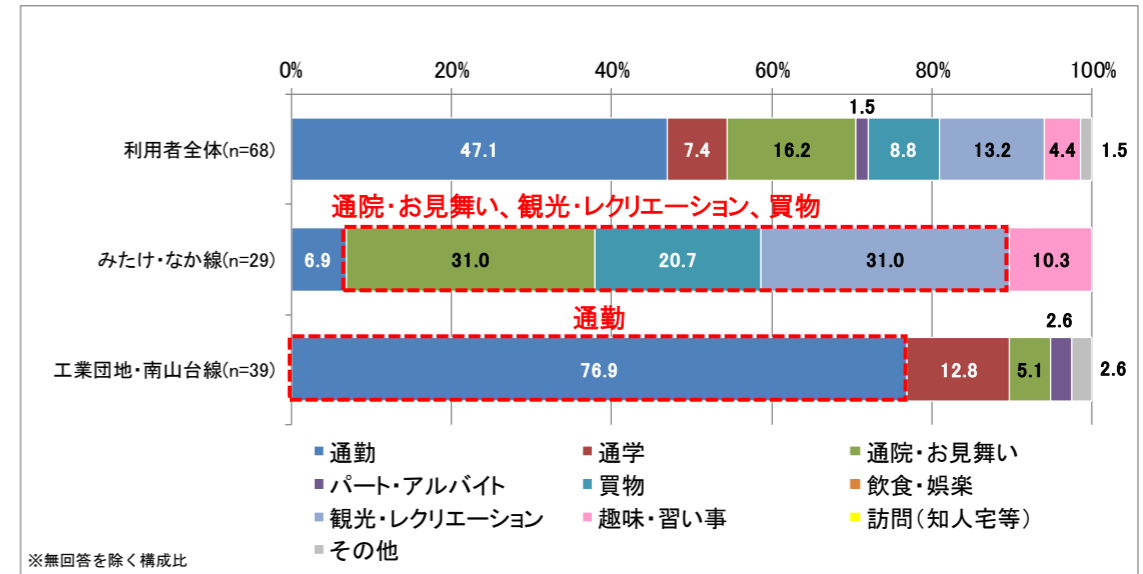
調査分類	御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向	課題との対応
町民アンケート	・名鉄広見線に期待する役割について、1位「通勤・通学するための交通手段」2位「他の鉄道駅や広見線の駅へ行くための交通手段」3位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」	④
	・ふれあいバスに期待する役割について、1位「通院・買い物するための交通手段」2位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」3位「通勤・通学するための交通手段」	④
	・タクシーに期待する役割について、1位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」2位「通院・買い物するための交通手段」3位「普段は公共交通を利用していないが、いつでも利用できる安心感を与える役割」	④
	・公共交通の町支出額や運賃について、「高齢者などの交通弱者の移動手段確保のためなら、今と同程度の町支出額でよい」という意見が27.3%ある一方で、「利用者を増やすことで収入を増やし、町支出額を減らすべき」が25.0%ある	③
	・ふれあいバスの運賃は100円（現在）以下が36.6%、101円以上が63.4%。ふれあい予約バスの運賃は、200円（現在）以下が49.2%、201円以上が50.8%。どちらも現状より多く支払ってもよいという回答が現状以下を大幅に上回る	③
	・公共交通を確保・維持するため協働・連携して取り組める内容について、「公共交通を積極的に利用する」19.2%、「地域で公共交通を活用したイベントを実施する」「地域企業の協賛金（募金など）を募り、収入を増やす」も多い	③
利用者アンケート	・往復利用をしない理由は、「車で送迎してもらえらるから」41.7%、「利用したい時間と合わないから」33.3%。	①④
	・バスの現状の総合的な満足度は、満足（満足＋やや満足）78.1%＞不満（やや不満＋不満）21.9%。「運賃」「乗り心地」は満足度が高いが、一方で「乗り継ぎの待ち時間」「運行本数」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」は不満度が高い。これからの重要度は、「バス停から目的地までの距離」「乗り心地」「運転手の対応」が高い	①④
	・重要度が高く満足度が低い項目は、「運行本数」「ダイヤ」「運行時間帯」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」「予約バスの予約方法」「予約バスの予約締め切り時間」	④
	・公共交通の町支出額や運賃について、利用者は「公共交通をより便利にするために、町支出額を増やしてもよい」「高齢者などの交通弱者の移動手段確保のためなら、今と同程度の町支出額でよい」がともに19.0%で最も多く、次いで「利用者を増やすことで収入を増やし、町支出額を減らすべき」が16.7%	③
	・ふれあいバスの運賃は100円（現在）が52.0%、101円以上が48.0%。ふれあい予約バスの運賃は、200円（現在）以下が60.0%、201円以上が40.0%	③
	・公共交通を確保・維持するため協働・連携して取り組める内容について、「公共交通を積極的に利用する」33.3%、「地域で公共交通について話し合う場や組織を設置する」11.9%	③
乗降調査	・ふれあいバスみたけ・なか線：利用者は70歳代以上が66.7%を占める。利用目的は「通院・お見舞い」「観光・レクリエーション」がともに31.0%、利用頻度は「月に数日程度」が最も多く60.0%。乗り継ぎを伴わない利用が51.7%で、最終目的地は89.7%が御嵩町内である	①②
	・ふれあいバス工業団地・南山台線：利用者は60歳未満が84.6%を占める。「通勤」を目的とした移動が76.9%、次いで「通学」12.8%。利用頻度は「ほぼ毎日」が73.7%で、名鉄広見線への乗り換え利用が55.3%、最終目的地は57.9%が町内である	①②
	・ふれあい予約バスふしみ線：利用者は70歳代以上が56.5%を占める。利用目的は「買物」30.5%、「通院・お見舞い」21.7%、利用頻度は「週に数日程度」が最も多く50.0%。乗り継ぎを伴わない利用が47.8%で、最終目的地は89.7%が御嵩町内である	②
	・ふれあい予約バスかみのごう線：利用者は70歳代以上が67.8%を占める。利用目的は「通院・お見舞い」34.1%「買物」28.2%、利用頻度は「週に数日程度」が最も多く48.2%。乗り継ぎを伴わない利用、予約バスへの乗り継ぎがともに39.1%で、最終目的地は93.1%が御嵩町内である	②

図1 全手段目的別トリップ構成



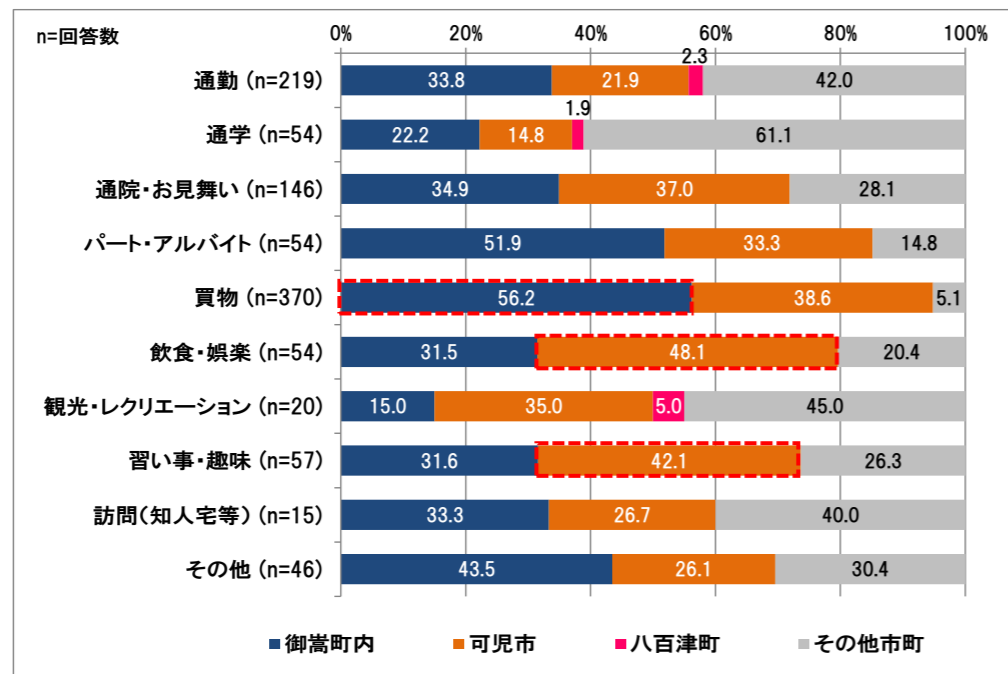
資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査

図4 ふれあいバスの利用目的



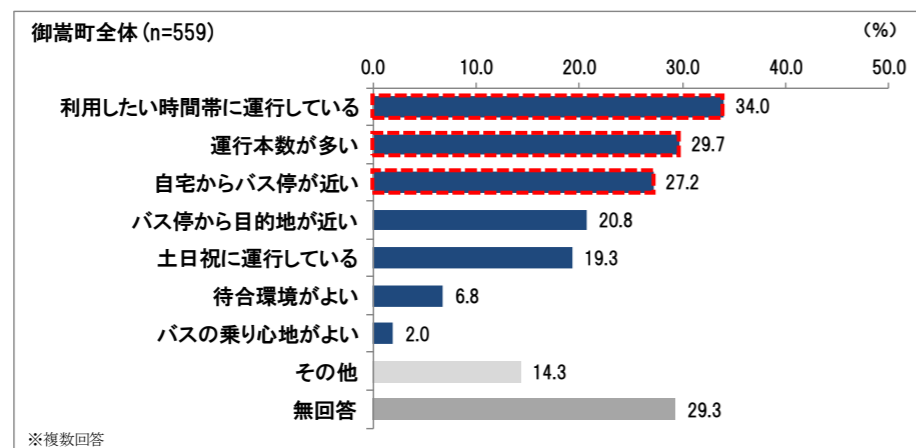
資料：乗降調査

図2 日頃の外出の目的地



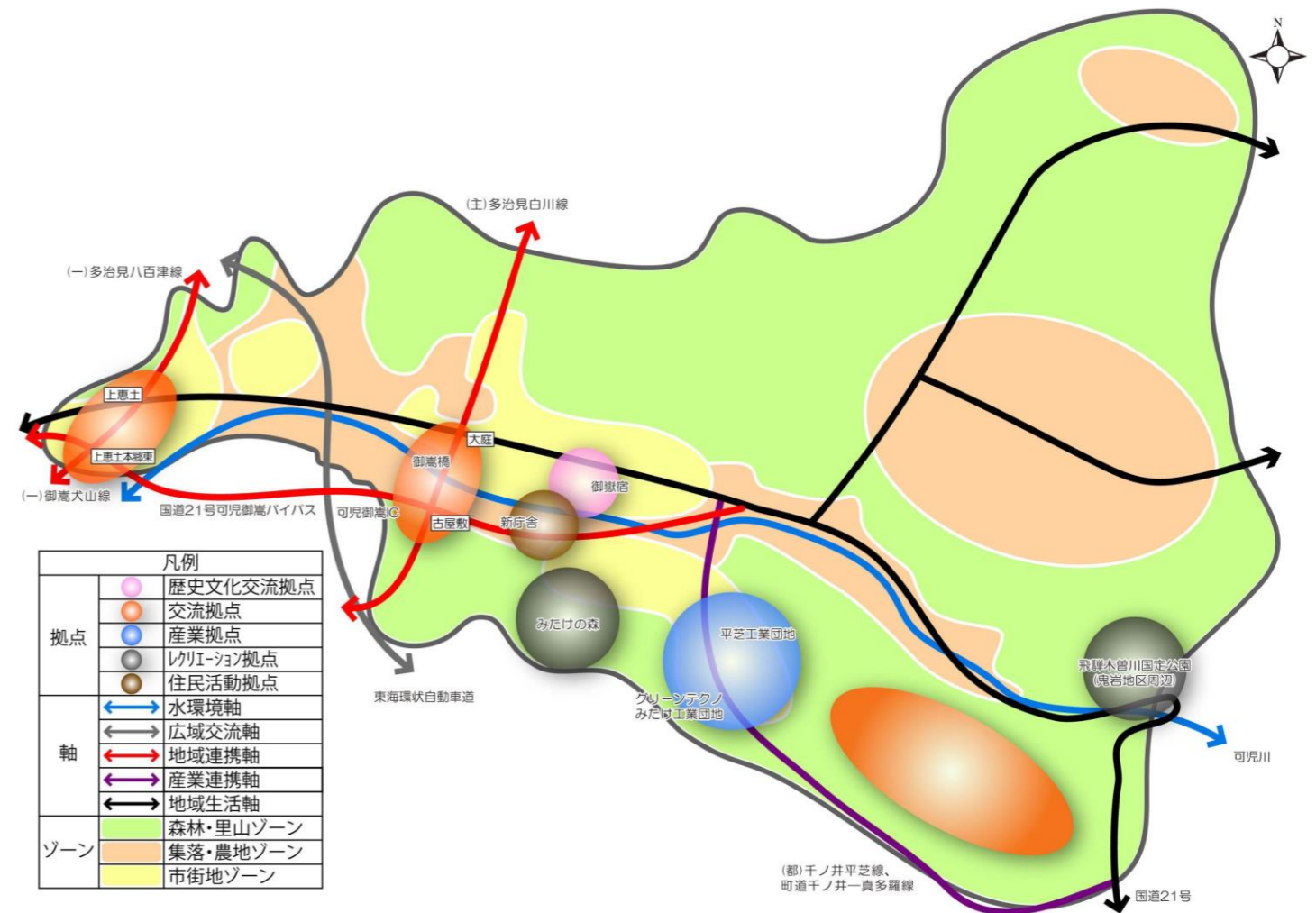
資料：町民アンケート調査

図3 ふれあいバスを今後利用するための条件 (未利用者)



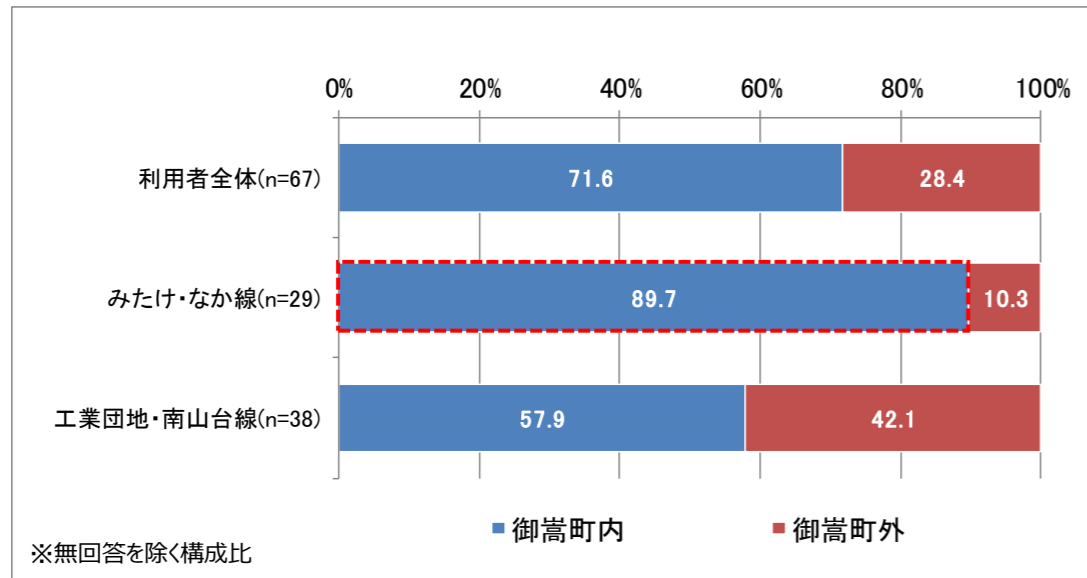
資料：町民アンケート調査

図5 将来都市構造図



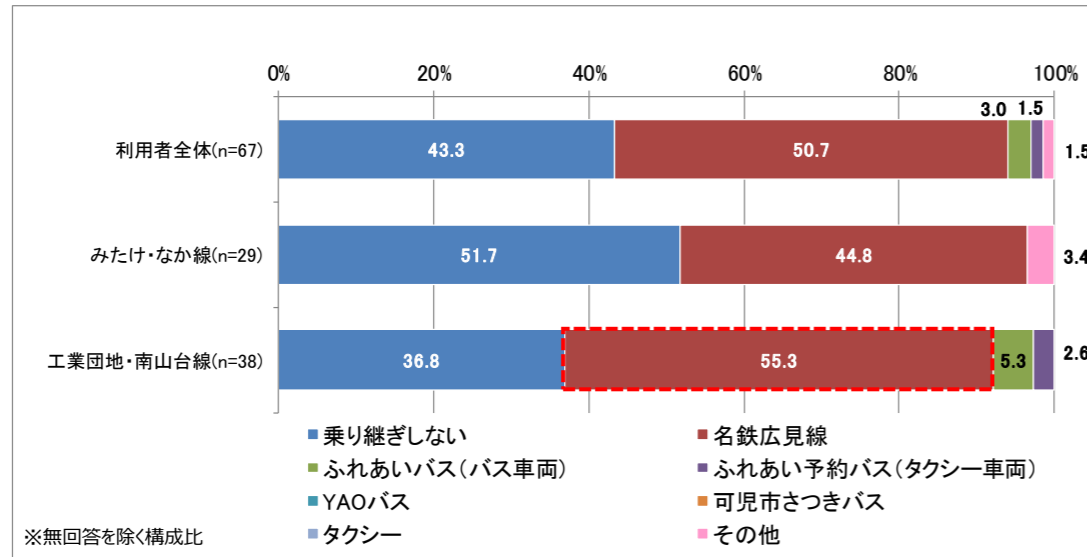
出典：御嵩町都市計画マスタープラン

図6 ふれあいバスの最終目的地



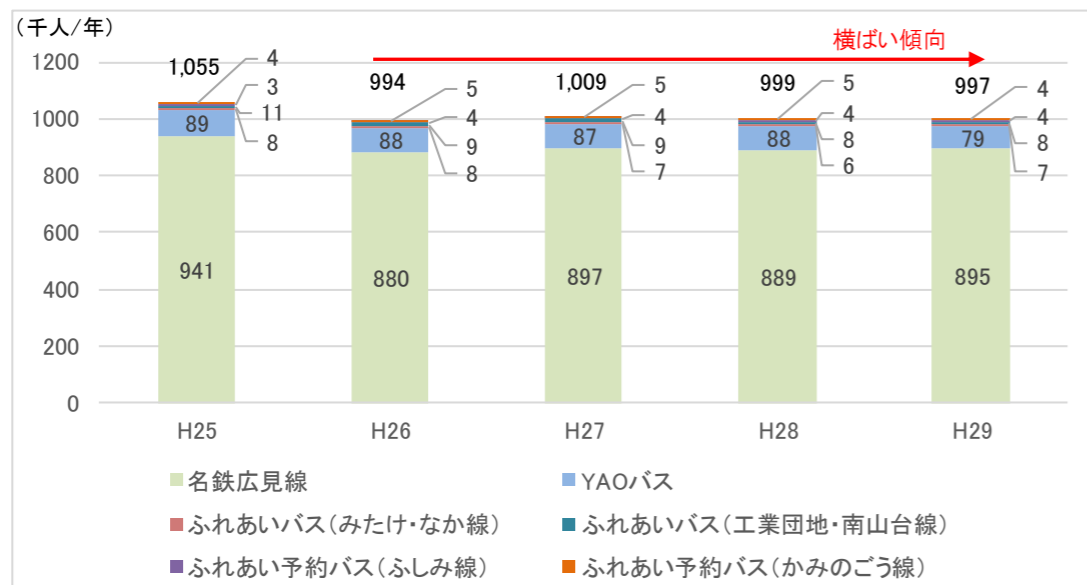
資料：乗降調査

図7 他路線との乗り継ぎ



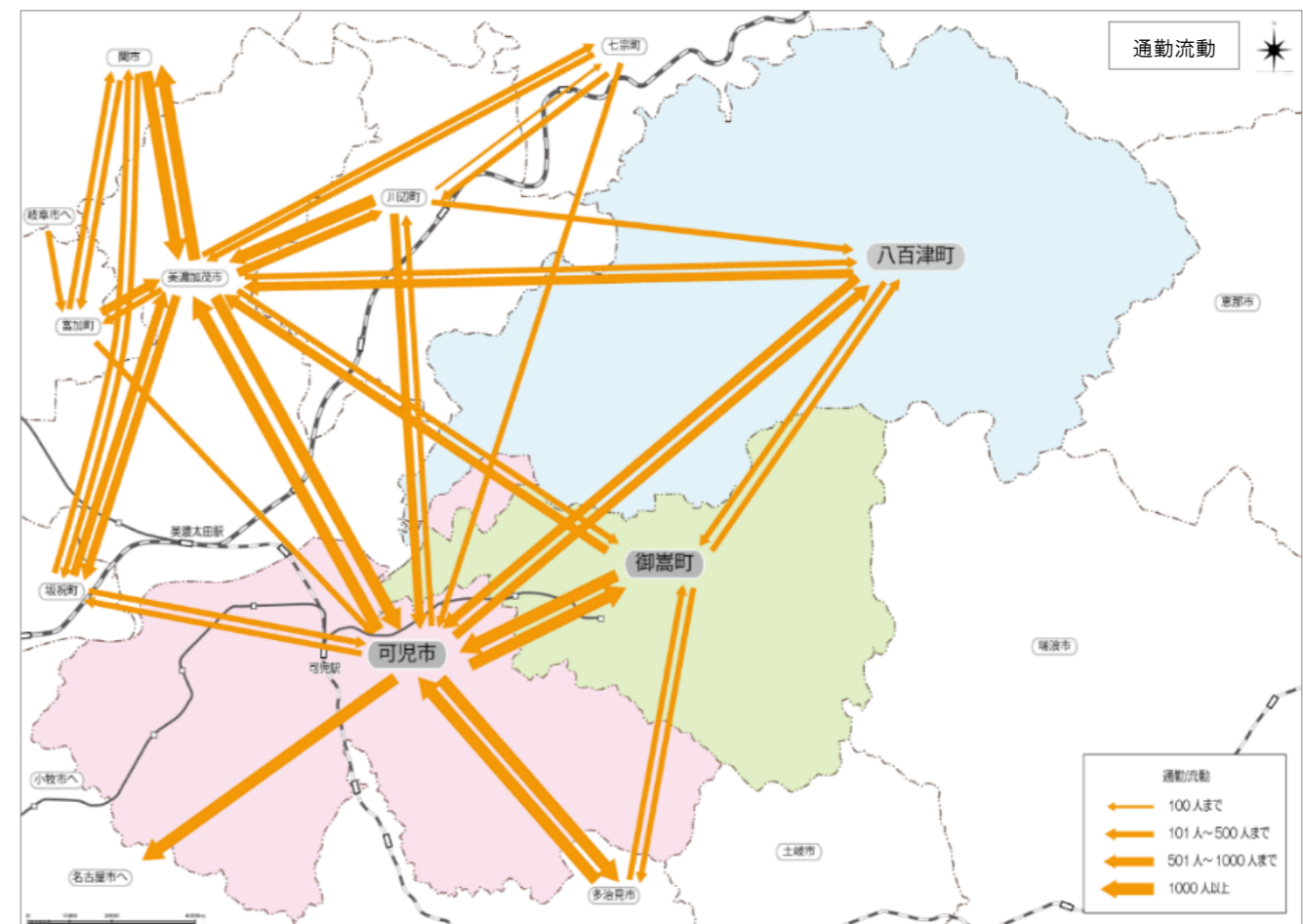
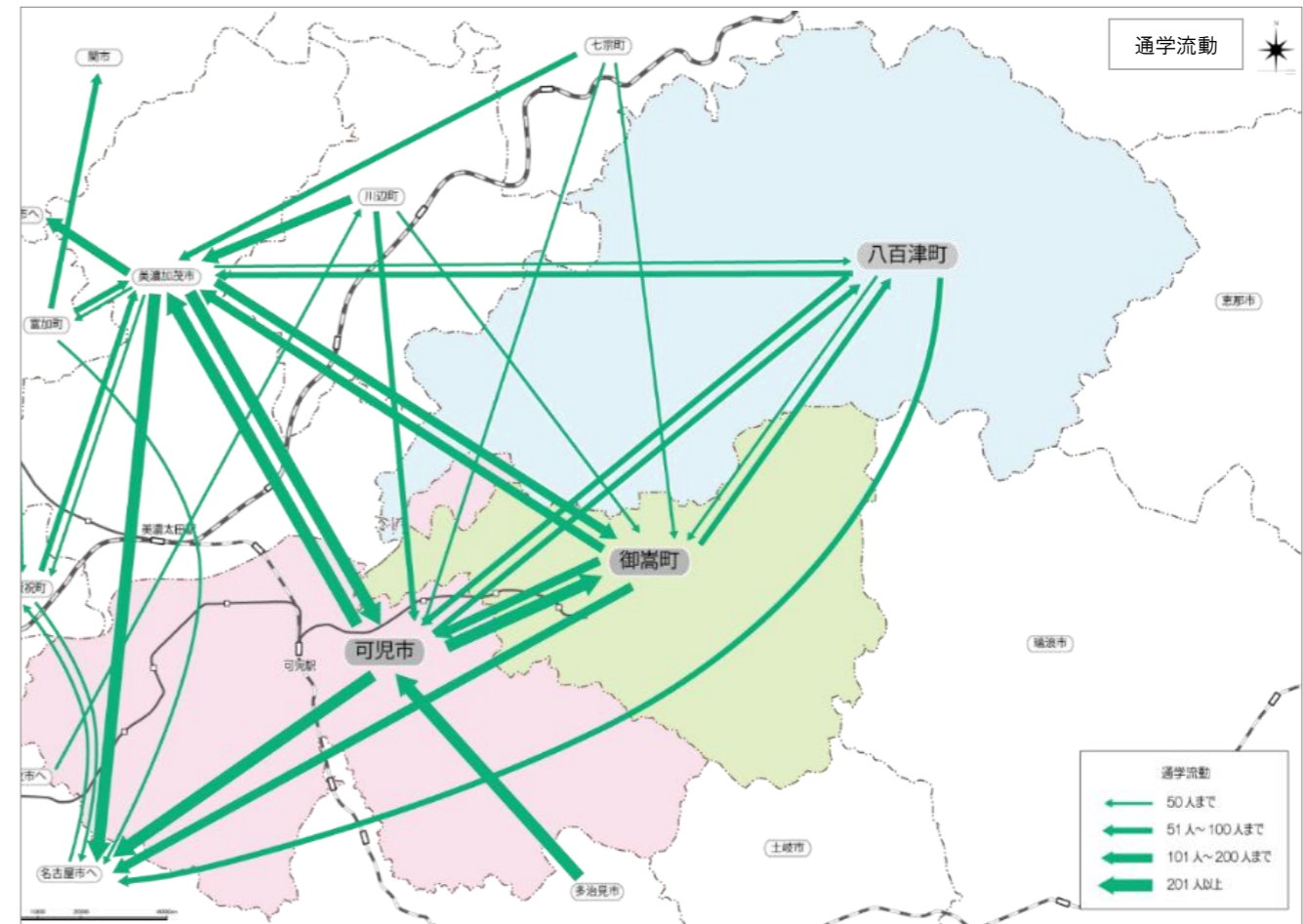
資料：乗降調査

図8 路線別利用者数の推移



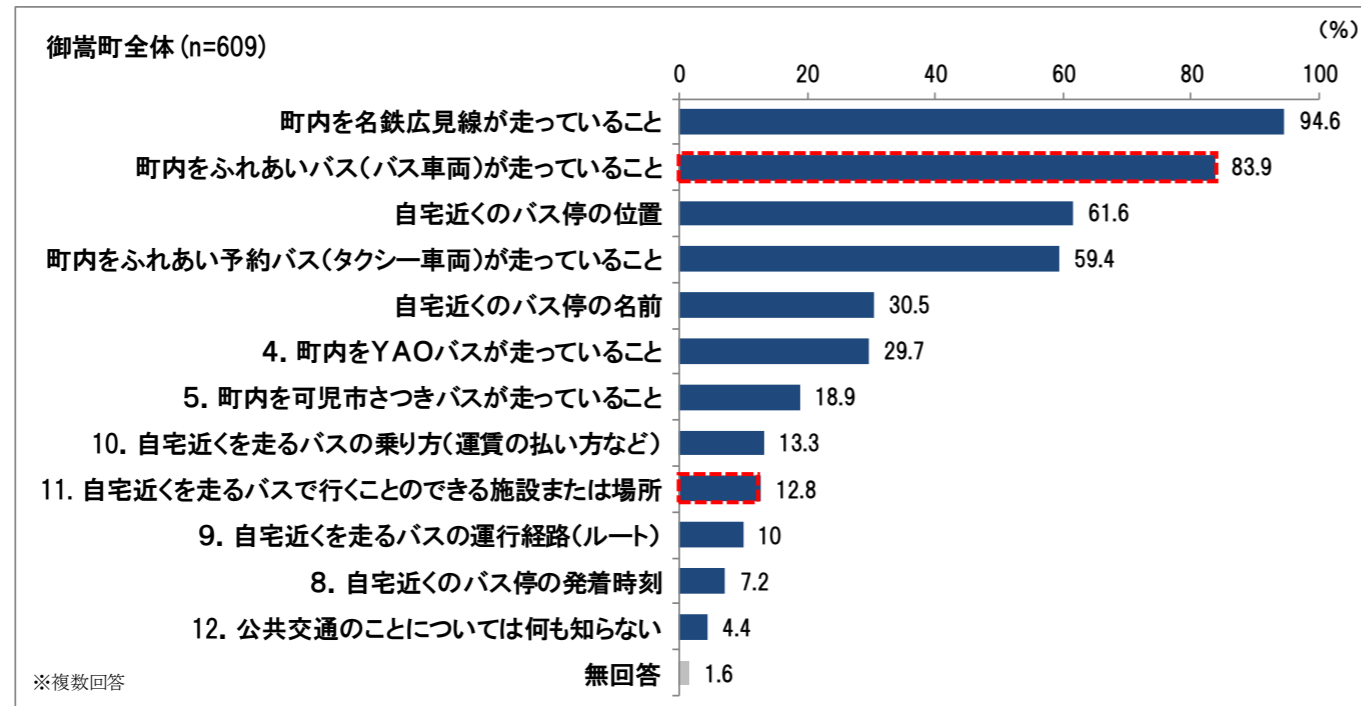
資料：御嵩町

図9 通勤・通学流動



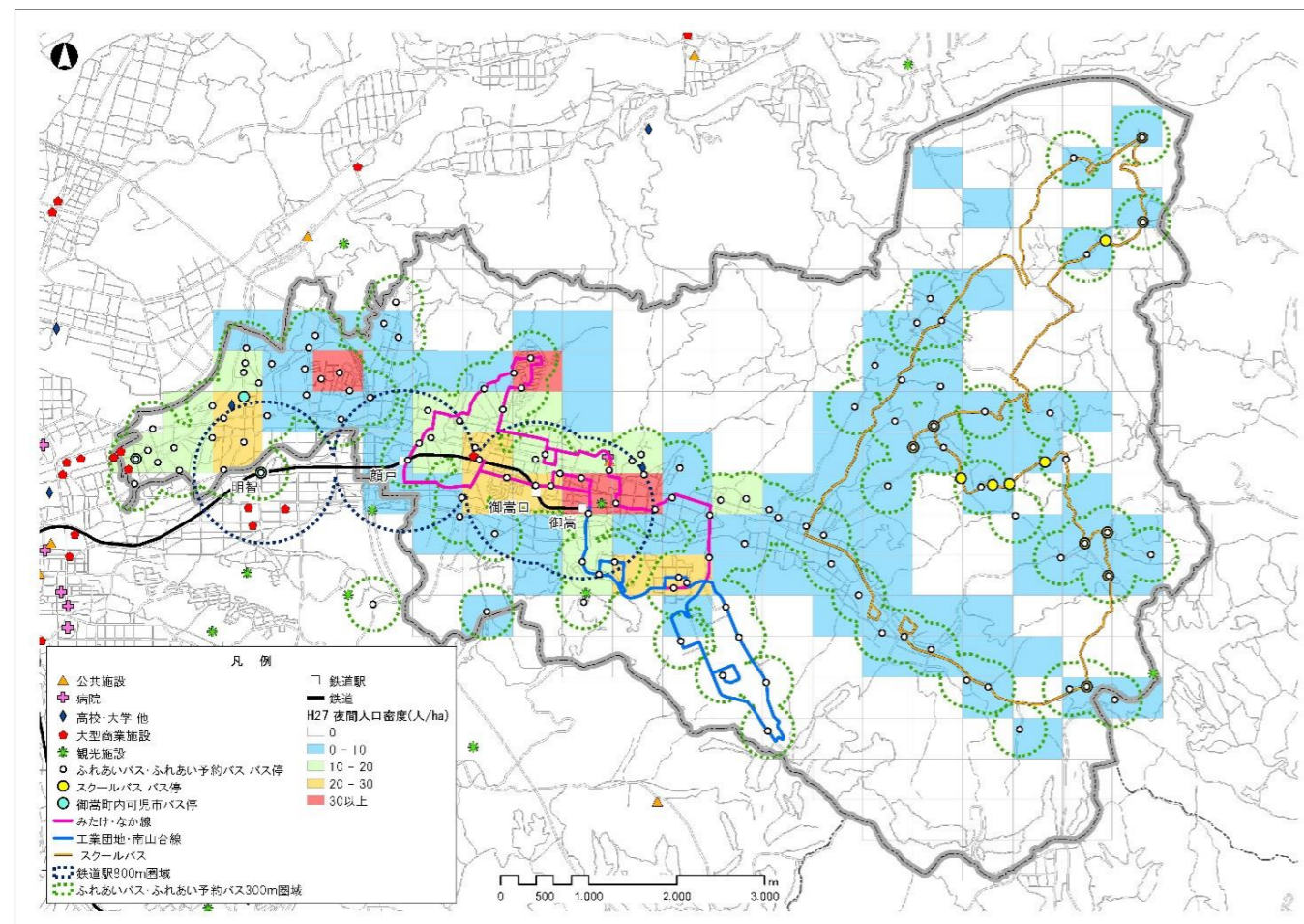
資料：H27 国勢調査

図10 御嵩町の公共交通について知っていること



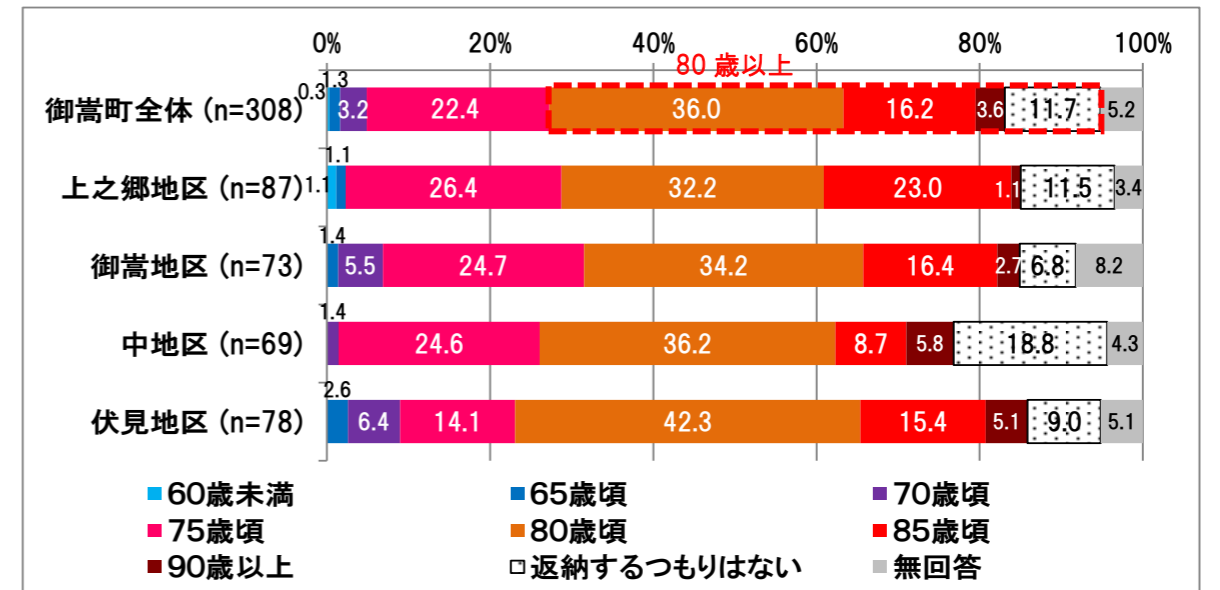
資料：町民アンケート調査

図11 ふれあいバス・ふれあい予約バスの人口カバー率



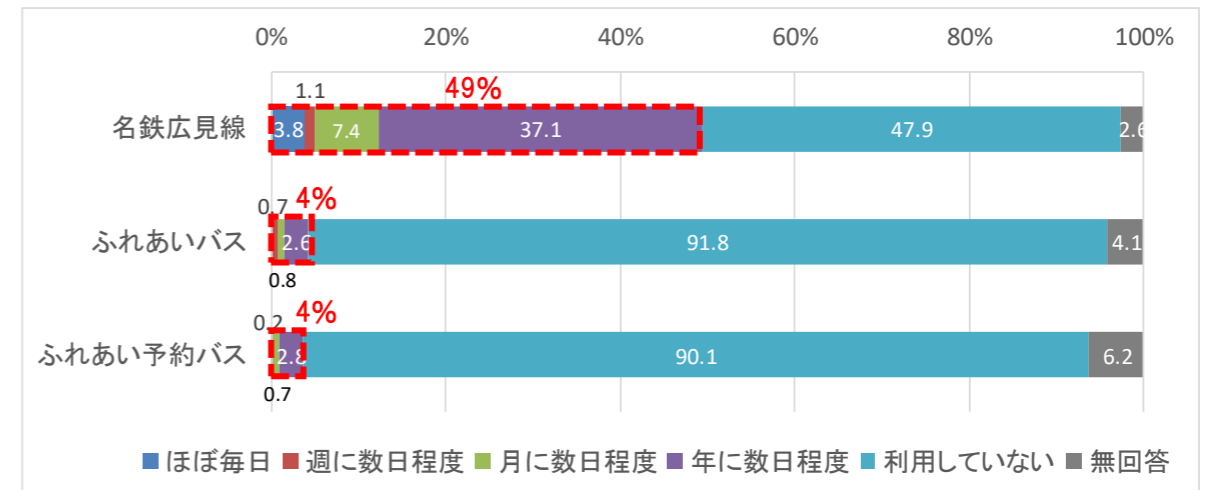
資料：国勢調査、国土数値情報、全国大型小売店舗総覧

図12 免許返納しようと思う(返納した)年齢



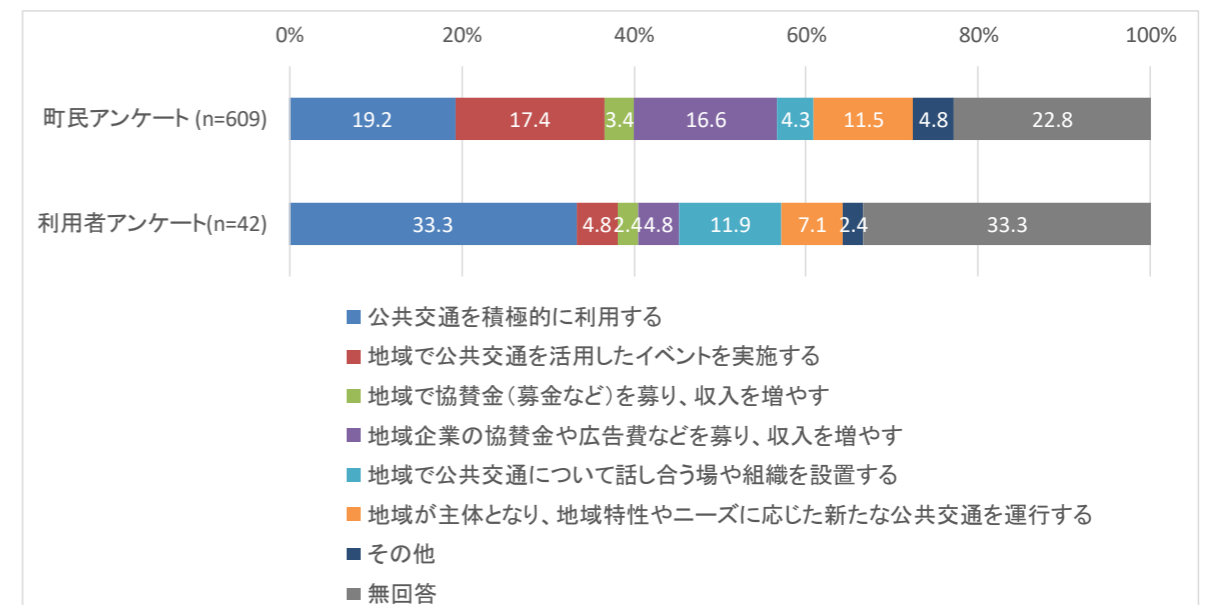
資料：町民アンケート調査

図13 公共交通の利用頻度



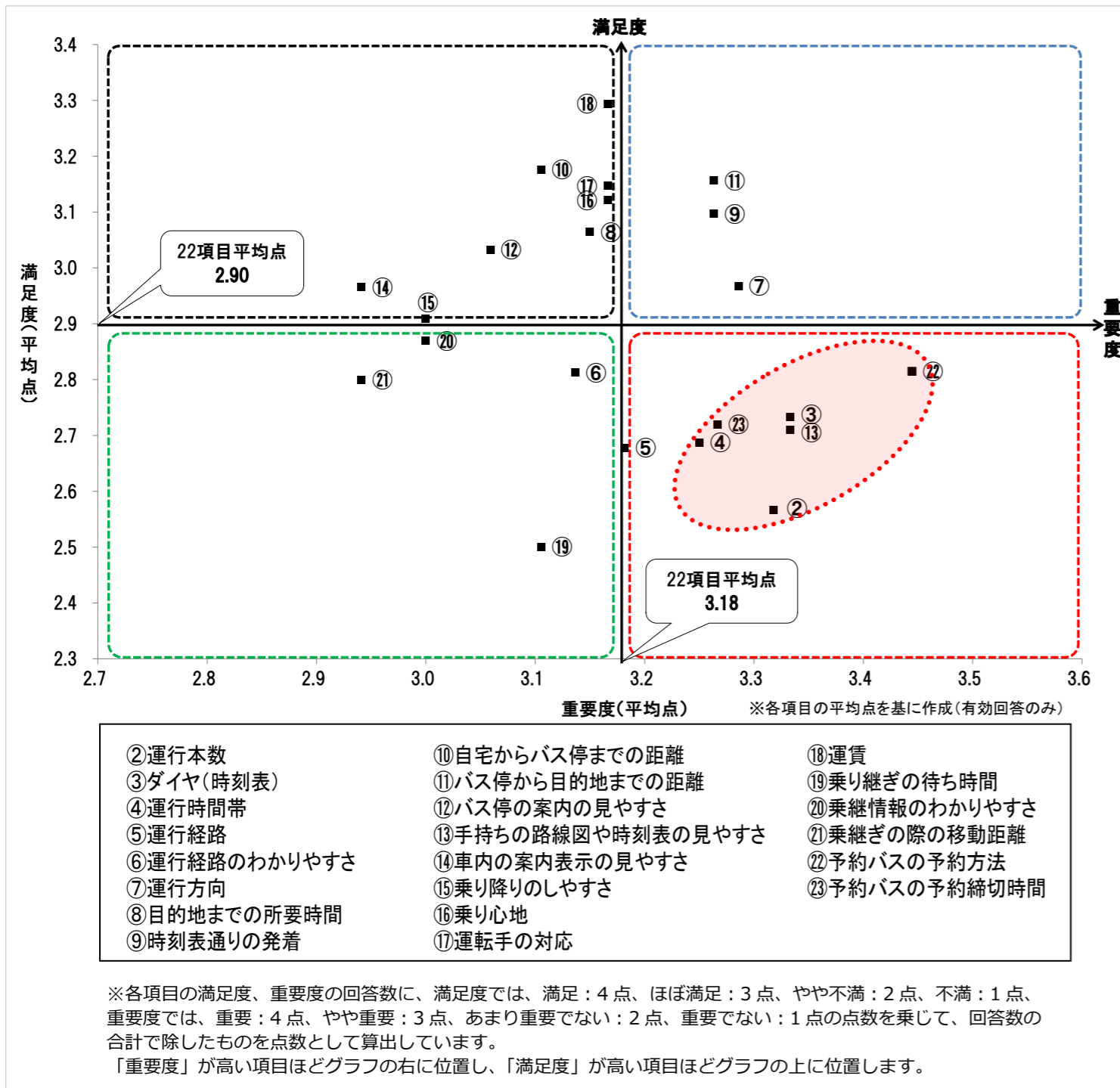
資料：町民アンケート調査

図14 公共交通を確保・維持するために取り組めること



資料：町民、利用者アンケート調査

図15 「現状の満足度」と「これからの重要度」の相関図



資料：利用者アンケート調査

## 御嵩町における地域公共交通の課題

## ① 路線で異なる利用目的や非利用者が利用可能となる移動ニーズ等への対応

- 町民の移動は自由目的（買物、通院、飲食・娯楽など）の割合が高く、買物は町内、通院、飲食・娯楽などは可児市への移動が主体を占めています。当面は、高齢者の人口、割合ともに増加傾向にあることから、更なる増加が予測される自由目的の移動需要に対応する必要があります。（図 1,2）
- 町民アンケートより、ふれあいバス・予約バスの非利用者の利用が可能となる条件として、「利用したい時間帯に運行している」、「予約が簡単」などの項目が挙げられることから、これら非利用者の利用が可能となるバスサービスの改善を図る必要があります。（図 3）
- 乗降調査より、各バス路線の利用目的は、みたけ・なか線、ふしみ線、かみのごう線は「通院・お見舞い」、「買物」が約 21～34%、みたけ・なか線では「観光・レクリエーション」も約 31%、工業団地・南山台線は「通勤」が約 77%となっていることから、路線で異なる利用特性に即したバスサービスを展開する必要があります。（図 4）

## ② 将来都市構造の構築を見据えた公共交通の役割の明確化

- 御嵩町は拠点連携型の都市構造を目指しており、歴史文化交流拠点と位置付けられる御嵩駅周辺を中心としつつ、各地域との連携はバスやタクシーなど公共交通相互がネットワークすることで、将来都市構造の構築を支える役割が期待されています。（図 5）
- 乗降調査より、みたけ・なか線の利用者の約 90%が御嵩町内を最終目的地とする一方、工業団地・南山台線は、名鉄広見線の乗り継ぎが約 55%を占めることから、町内移動の充実とともに名鉄広見線へのアクセス機能に対応したバスサービスの充実を図る必要があります。（図 6,7）

## ③ 御嵩町及び周辺都市を含めた交通圏の移動需要に対応した公共交通手段の確保

- 国勢調査や各種アンケートより、御嵩町は通勤・通学や観光目的で隣接する可児市・八百津町との結びつきが強い傾向にあります。しかし、これら隣接する可児市、八百津町への移動は、東西方向の名鉄広見線が一定頻度で運行するものの、南北方向は主に通学需要に対応した YAO バスが運行する他、各市町に分布する商業・医療・観光等施設への移動需要に対応した広域的な公共交通は存在しないことから、新たな広域公共交通路線について、関係者間で協議・調整を図る必要があります。
- 町民・利用者アンケートより、公共交通を確保・維持するためには「公共交通を積極的に利用する」、「公共交通を活用したイベントの実施」、「公共交通について話し合う場や組織の設置」などの声が挙げられることから、交通事業者、利用者・地域住民及び行政など、地域の公共交通に携わる関係者が連携・協働した取り組みを推進する必要があります。（図 8,9,14）
- 御嵩町に関連する広域的な移動需要に対応するため、可児市や八百津町へ連絡する名鉄広見線や新たな広域公共交通サービスの確保が重要となります。
- 御嵩町及び周辺地域のおすすめスポットとして、可児市の花フェスタ記念公園や八百津町の人道の丘公園（杉原千畝記念館）、御嵩町の鬼岩公園などが上位に挙げられることから、これら観光・レクリエーション施設と公共交通が連携した地域の魅力を創出するバスサービスを展開する必要があります。

## ④ わかりやすい情報・案内の提供や利用しやすいバス交通へのサービス改善

- 公共交通による町人口のカバー率は約 89%、町内の主要集客施設は概ねカバーされることを背景とし、町民アンケートではふれあいバスの認知度は約 84%と高い一方、バスで行くことのできる施設の認知度は約 13%に留まっていることから、各種バスサービスを知っていただき、利用していただくためにも、わかりやすい情報・案内を提供する必要があります。（図 10,11,12,13）
- 利用者アンケートより、現状の満足度が低く、今後の重要度が高いバスサービス項目は、「運行本数」「ダイヤ」「運行時間帯」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」「予約バスの予約方法」「予約バスの予約締め切り時間」などが挙げられることから、利用しやすいバス交通とするためにサービス改善に取り組む必要があります。（図 15）

## 課題への対応方針（案）

## I 御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

- 御嵩町の将来都市構造の核として機能する御嵩駅周辺を中心拠点とし、都市間移動需要に対応した名鉄広見線、中心拠点と各地域を結ぶふれあいバス等、御嵩駅や町内主要集客施設への利便性を確保する各種公共交通を提供します。
- ⇒ 御嵩町に関連する公共交通の各路線機能の明確化、福祉交通との役割分担
- ⇒ 各路線機能に応じた適切な公共交通手段の選択、運行サービスの確保 など

## II 名鉄広見線を軸に広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入検討

- 御嵩町、可児市、八百津町の結びつきを強化するため、名鉄広見線を東西公共交通軸としつつ、南北方向の新たな広域バス路線の導入に係る検討を進めます。
- 地域の公共交通の運行に携わる全ての関係者が連携・協働した取り組みを実施します。
- 地域の魅力ある観光・レクリエーション資源と公共交通が連携し、インバウンド需要への対応を図ります。
- ⇒ 新たな広域路線の導入に向けた、協議・調整の場の設置、運行計画の検討
- ⇒ 地域住民、交通事業者及び行政等が連携・協働した地域公共交通の確保・維持
- ⇒ インバウンド需要に対応した地域の歴史・文化・自然等資源の活用 など

## III わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

- 路線で異なる利用目的、今後の町人口の動向、バス非利用者が利用可能となる条件など、変化・多様化する移動ニーズに対応した運行サービスを提供します。
- バス利用が可能となる情報・案内の提供や、日常的な利用頻度を高める各種取り組みを推進します。
- ⇒ 今後も増加が予測される自由目的（買物・通院・飲食等）の移動に対応した利用しやすい運行経路の設定・バス停の設置、待合環境の充実
- ⇒ バス非利用者が利用可能となる目的施設（鉄道駅、商業施設、病院等）への到着時刻や利用時間帯に配慮したダイヤ設定
- ⇒ わかりやすい公共交通の運行案内や予約バスの利用方法、公共交通を利用して行くことができる各種施設の情報提供
- ⇒ バスへの愛着を高め、利用しなくなる各種取り組みを地域団体等と協同して推進 など